

黒草第2遺跡

県営農地保全整備事業（元野地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書

2001

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会



黒草第2遺跡 遺景(南西から)



E地区全景(北から)

例　　言

1. 本書は、平成12年県営農地保全整備事業元野地区における調査結果の概要を報告するものである。

2. 本遺跡の現地調査および室内整理作業は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業ならびに文化庁の国庫補助事業として田野町教育委員会が実施した。調査体制は以下の通りである。

調査主体 宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

調査組織	田野町教育委員会	教育長	堀 内 侃
		社会教育課長	永 谷 弘
		社会教育課長補佐	川 越 修 治
		社会教育係長	有 村 勝 弘

埋蔵文化財担当 同主査 森 田 浩 史

同主任主事 金 丸 武 司

調査および調査事務担当

同主査 森 田 浩 史

同主任主事 金 丸 武 司

同埋蔵文化財調査員 田 鍾 美 紀

3. 調査にあたっては、空中写真撮影および現地における測量業務の1部を有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

4. 本書の執筆・編集は金丸、田鍾が行った。

5. 本書で用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

6. 本書の色調表示は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を参考にした。

7. 出土遺物は田野町教育委員会文化財調査事務局及び文化財収蔵庫にて保管している。

本文目次

序説

1、調査に至る経緯	1
2、遺跡の立地と歴史的環境	1
調査の結果	
1、調査の概要	3
2、検出遺構	4
3、出土遺物	9

挿図目次

第1図 町内主要遺跡分布図	2
第2図 調査区設定図	2
第3図 基本土層柱状図	3
第4図 A地区・B地区遺構分布図	5
第5図 C地区遺構分布図	6
第6図 出土遺物分布図	6
第7図 A地区遺構実測図	7
第8図 C地区遺構実測図	7
第9図 B地区集石遺構実測図	8
第10図 出土遺物実測図	9

図版目次

卷頭 黒草第2遺跡遠景	
E地区全景	
図版1(1)A地区全景	12
(2)A地区土坑2完掘状況	12
(3)A地区土坑4完掘状況	12
図版2(1)B地区全景	13
(2)B地区石皿出土状況	13
図版3(1)B地区集石遺構4検出状況	14
(2)B地区集石遺構5、6検出状況	14
(3)B地区集石遺構7検出状況	14
図版4(1)C地区集石遺構2検出状況	15
(2)C地区土坑5完掘状況	15
(3)C地区土坑3完掘状況	15
図版5黒草第2遺跡出土遺物	16
図版6黒草第2遺跡出土遺物	17

序 説

1、調査に至る経緯

田野町は宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、周囲を取り囲む鶴塚山系をはじめとする山地及びその麓に形成された扇状地や河岸段丘などからなり、1市（宮崎市）と5町（清武町、高岡町、山之口町、三股町、北郷町）と接している。これまでの主産業は、大根や葉煙草などの農業に依存していたが、近年では工業用地の整備や専門学校の誘致、宅地開発などにより、次第に変化・発展しつつある。しかしその一方では農業基盤整備や各種の開発事業に伴う埋蔵文化財の保存が大きな問題となっており、町教育委員会でも調整や調査体制の整備・充実を図ってきた。しかし、これらを含めた開発事業との調整は困難を極め、遺跡の大部分は記録保存の対象となり消滅しているのが現状である。

平成11年度は県営農地保全整備事業元野地区が実施されることとなり、事業地内に県文化課が分布を確認するため試掘調査を行ったところ、部分的に縄文時代早期の遺構・遺物が分布することが明らかになった。平成12年6月28日に中部農林振興局、県文化課、町農業整備課、町教育委員会の四者で協議を行い、設計施工上やむを得ず消滅を免れない部分について発掘調査による記録保存を実施することとなり、平成12年8月28日付けで契約を締結、29日より現地の調査に着手した。

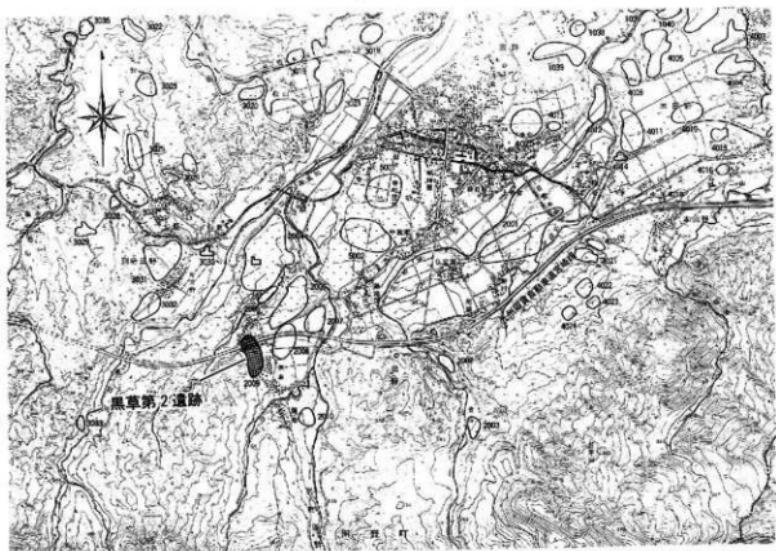
調査は、田野町内の皆様のご協力を得ながら翌年1月25日に終了した。同遺跡の調査面積は約7,500m²に至った。

2、遺跡の立地と歴史的環境

黒草第2遺跡（2009）は、標高190m台の台地上、北側へのびる鶴塚山系の丘陵先端部に位置し、南側から北側にかけて傾斜する地形をなしている。鶴塚渓谷を源流とする山下川など清武川の支流にあたる小河川に挟まれた微高地の周辺一帯では、上流河川の氾濫により形成された疊の堆積層が散見できる。

このような豊富な水資源を有する本遺跡の周辺では縄文時代早期、後期の土器が出土した黒草第1遺跡（2008）、黒草第3遺跡（2007）、縄文時代後期、晚期の遺構、遺物が出土した本野原遺跡（2006）、縄文時代前期から後期の遺物ならびに弥生時代中期末葉から後期の堅穴式住居群が検出された本野遺跡（2005）、縄文時代晚期と推測される掘立柱建物群および、本野遺跡と同時期の弥生時代中期末葉から後期の堅穴式住居を検出した高野原遺跡（2004）などの遺跡が点在する。

黒草第2遺跡はこうした周辺遺跡と比較してみると、河川と河川の中間域に立地する。その為、豊富な湧水帶ではあるが、一方で近年に至るまでも湧水域の移動があったようで、恒常的水資源は河川に頼らざるを得なかったと推測される。本遺跡は水資源の確保という観点にのみ限るなら、不利な環境に位置していると言える。



第1図 町内主要遺跡分布図（1 : 50,000）



第2図 調査地区設定図

調査の結果

1、調査の概要

調査は対象地区を便宜的にA地区、B地区、C地区に設定して行った。調査区は傾斜面に位置し、調査区内でも複雑な起伏を形成している為、部分的に耕作による削平を受けていた。表土について赤ホヤ火山灰の堆積層も機械による掘削を行った後、人力による遺物包含層の掘削を行った結果、各地区から縄文時代早期の遺構、遺物が検出された。

調査で確認された層序は以下の通りである。

第I層：耕作土による擾乱層（10YR3/1）

粒子が粗く、サラサラしている。部分的にII層の粒子が混入する。

第II層：アカホヤ火山灰層（10YR7/6）

層は極めて軟質であり、粘性や水分は殆どない。火山ガラスを多く含む。但しIII層よりも色調が暗いため、二次堆積層であると考えられる。

第III層：アカホヤ火山灰層（10YR8/6）

第II層と同じく火山ガラスを多く含む層であるが、II層に比べ固く締まっており、層中にオレンジ色の軟質粒子や黒色粒子が、それぞれ少量含まれる。

第IV層：黒色ローム層（10YR3/2）

堅く締まった層。一般では「牛の脛ローム」と呼称される層である。層中には白色の粒子や、III層でも見られたオレンジ色の軟質粒子が中量認められる。層は粘性に富む。縄文時代早期末の遺物包含層にあたり、本遺跡から多くの遺物が出土した。石皿の多くの検出面も、この層中である。

第V層：暗褐色ローム層（10YR3/3）

IV層に比べ軟質の層であり、粘性に富む。IV層より続く白色粒子がやや混入する他は目立った混入物はない。縄文時代早期後半の遺物包含層にあたる。本遺跡の集石遺構の多くが、この層を検出面とする。

第VI層：茶褐色ローム層（2.5Y4/2）

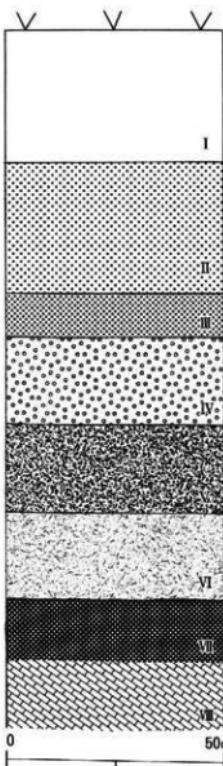
V層に比べ色調が明るくなり、常時水分を多く含む。指頭大の礫が多く流れ込む。通常縄文時代早期前半の遺物が包含する層であるが、本遺跡から遺物は殆ど出土されなかった。

第VII層：小林降下軽石層（7.5YR4/4）

非常に堅く締まった層であり、白色、橙色の軟質粒子を中量、ガラス質の粒子を少量含む。

第VIII層：始良丹沢火山灰層（2.5Y7/4）

始良カルデラの爆発によって飛散した火山灰の堆積層である。水分を多く含むが、粘性は全くなく、層中には火山ガラスを夥しく含むほか、軽石片も少量混入する。



第3図 基本土層柱状図

2、検出遺構

A地区

調査区東側部分の大半は地形の傾斜による擾乱を受けており、西側の一部分において第V層上面より土坑4基を検出した。

土坑1 長辺1.2m・短辺0.5mの楕円形を呈する。上層部は後世の削平を受けており、当初の掘り込みは現状より深かったと考えられる。

土坑2 長辺1.6m・短辺約0.4mの長楕円形を呈し、土器片が出土しているが時期は不明である。覆土は赤ホヤ火山灰の2次堆積層である。

土坑3 長辺約0.9m・短辺0.4mの長楕円形をなす。覆土中に火山ガラスを多く含み、炭化物も混入している。

土坑4 長辺1.2m・短辺0.3mの楕円形の土坑である。覆土は火山ガラス、軽石を多く含む。

いずれも40cm前後の深さであり、用途、性格についての詳細は不明である。

B地区

第V層より集石遺構20基を検出したが、うち9基を中心概観すると、全体的に配石の状況は小規模で、掘り込みはごく浅く一段のみで構成されている。散石状をなす例が多いが、その範囲も1m前後と小規模にとどまる。集石遺構を構成する礫そのものも10cm弱の固体が大半である。集石4については近接して石皿を検出した。

C地区

第V層にて土坑3基、集石遺構2基を検出した。

集石遺構については集石1が掘り込みを伴うが、2基とも少量の礫により構成されており、小規模な集石遺構である。

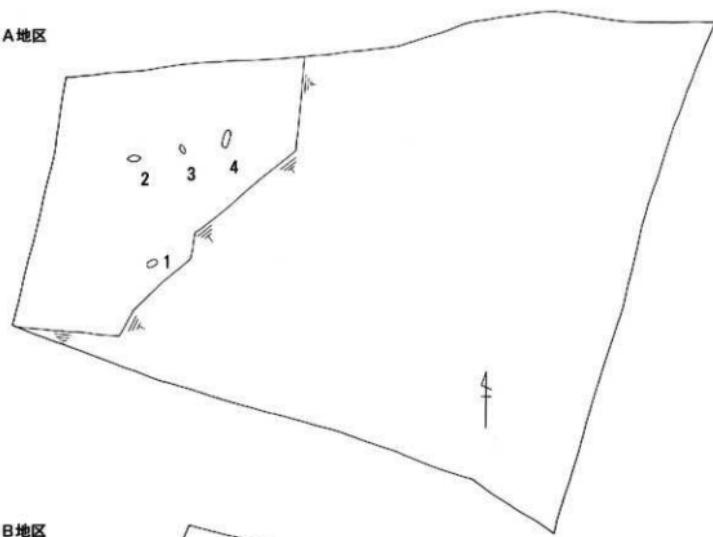
土坑3 直径0.8m、深さ約0.6m、円形の土坑である。

土坑4 直径1m、深さ約0.8mの円形土坑である。

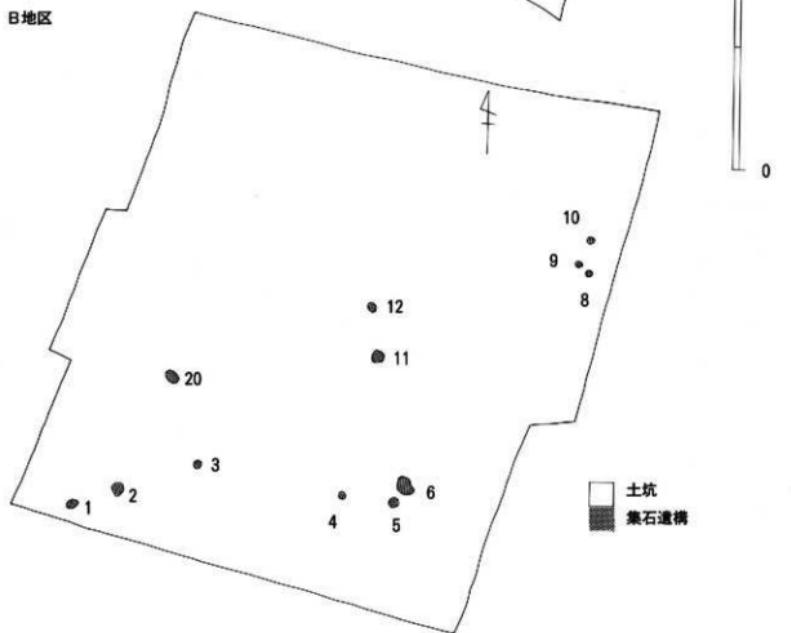
土坑5 長辺1.6m、短辺0.5mの長方形をなす、深さ0.3mの土坑である。

いずれの土坑も覆土は赤ホヤ火山灰である。土坑3、土坑4については陥し穴である可能性も否定できないが、降雨などの浸水により、残存状況が不良である為、断定はできない。

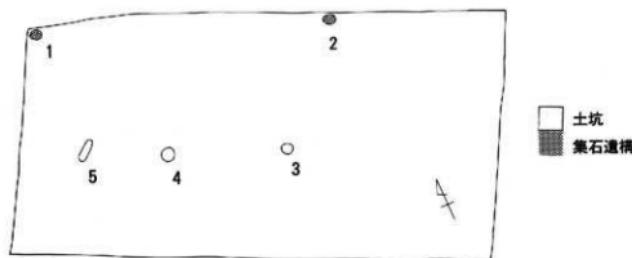
A地区



B地区

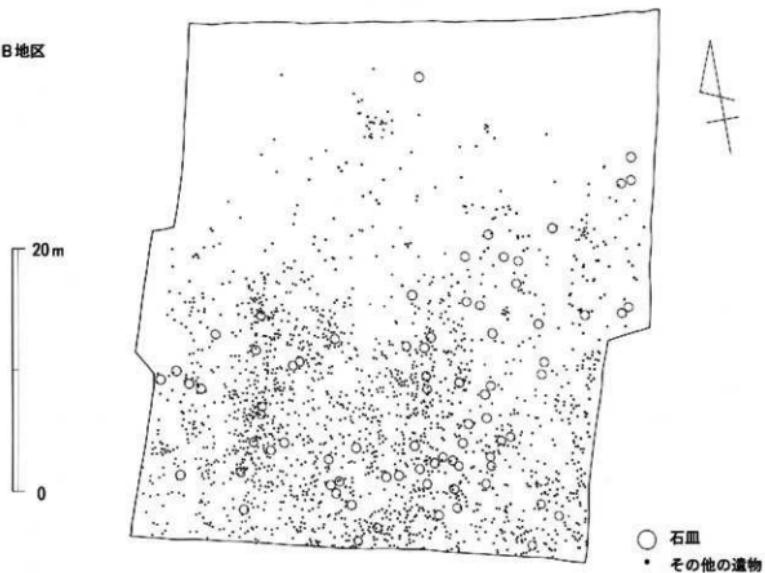


第4図 A地区・B地区遺構分布図

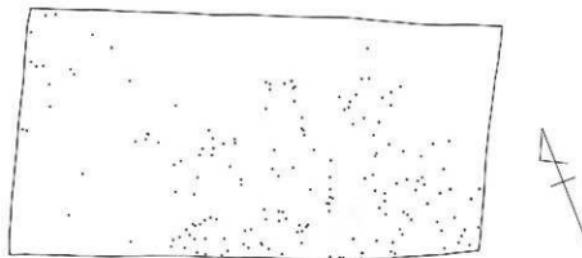


第5図 C地区遺構分布図

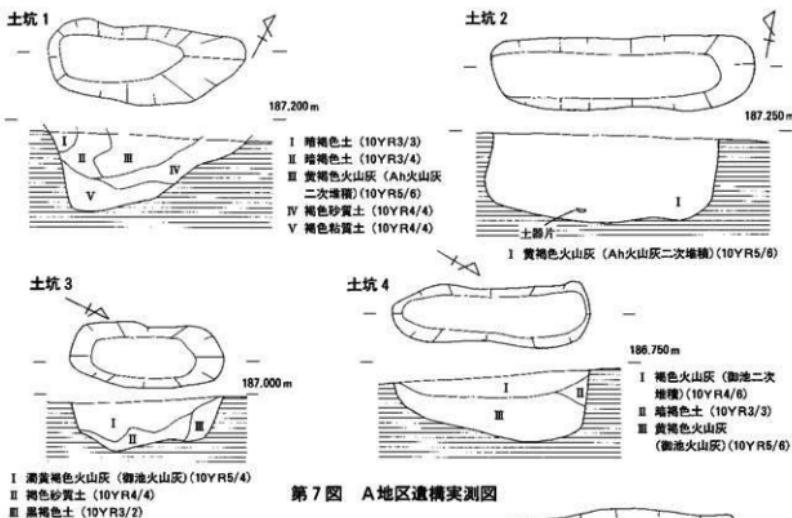
B地区



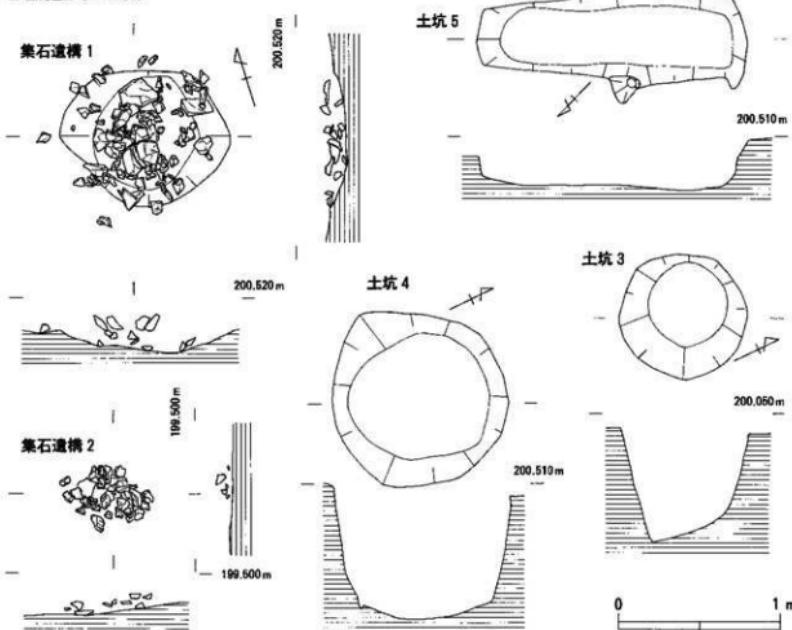
C地区



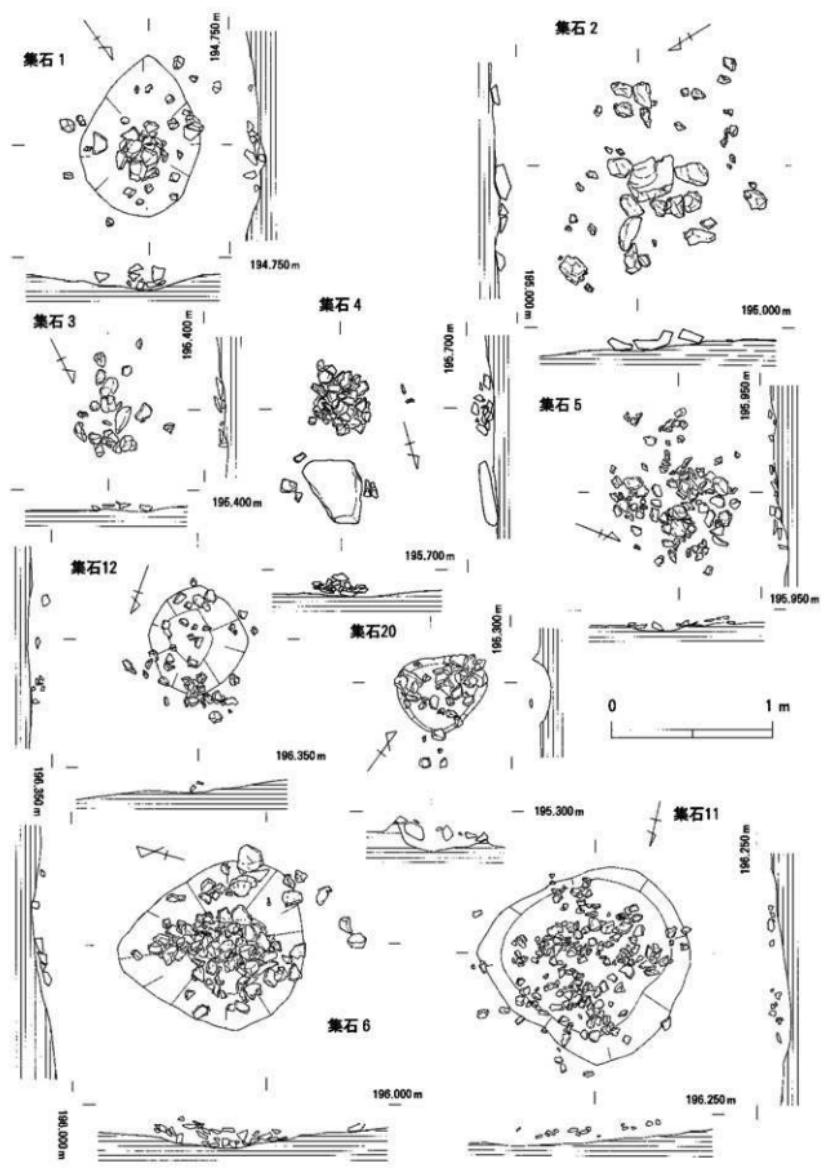
第6図 出土遺物分布図



第7図 A地区遺構実測図



第8図 C地区遺構実測図



第9図 B地区集石造構実測図

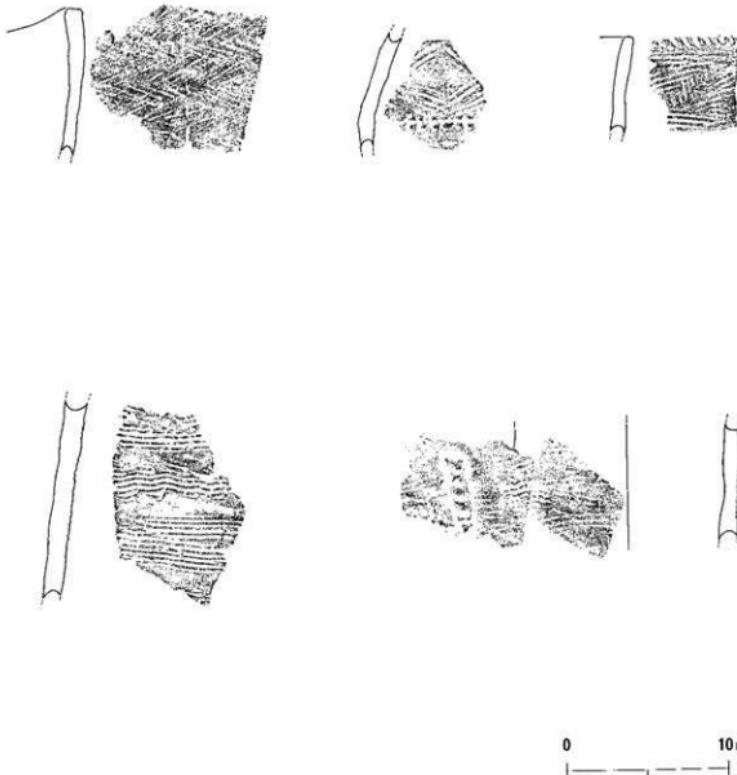
3、出土遺物

B地区、C地区を中心に縄文時代早期の土器と石器が約4,000点程出土した。なかでも早期後半の貝殻条痕文を有する土器がその殆どを占め、その他では少量の押型文系土器と塞ノ神式土器、平柄式土器が出土した。

石器については姫島産と推察される淡白色の黒曜石の出土量が多いことが特徴的である。

またB区からは、調査区北側を中心に長径30cm前後の石皿が70点近く出土した。

その他、細石刃核も数点出土しているが、出土遺物については本報告にて詳細な検討を加えることとする。



第10図 出土遺物実測図

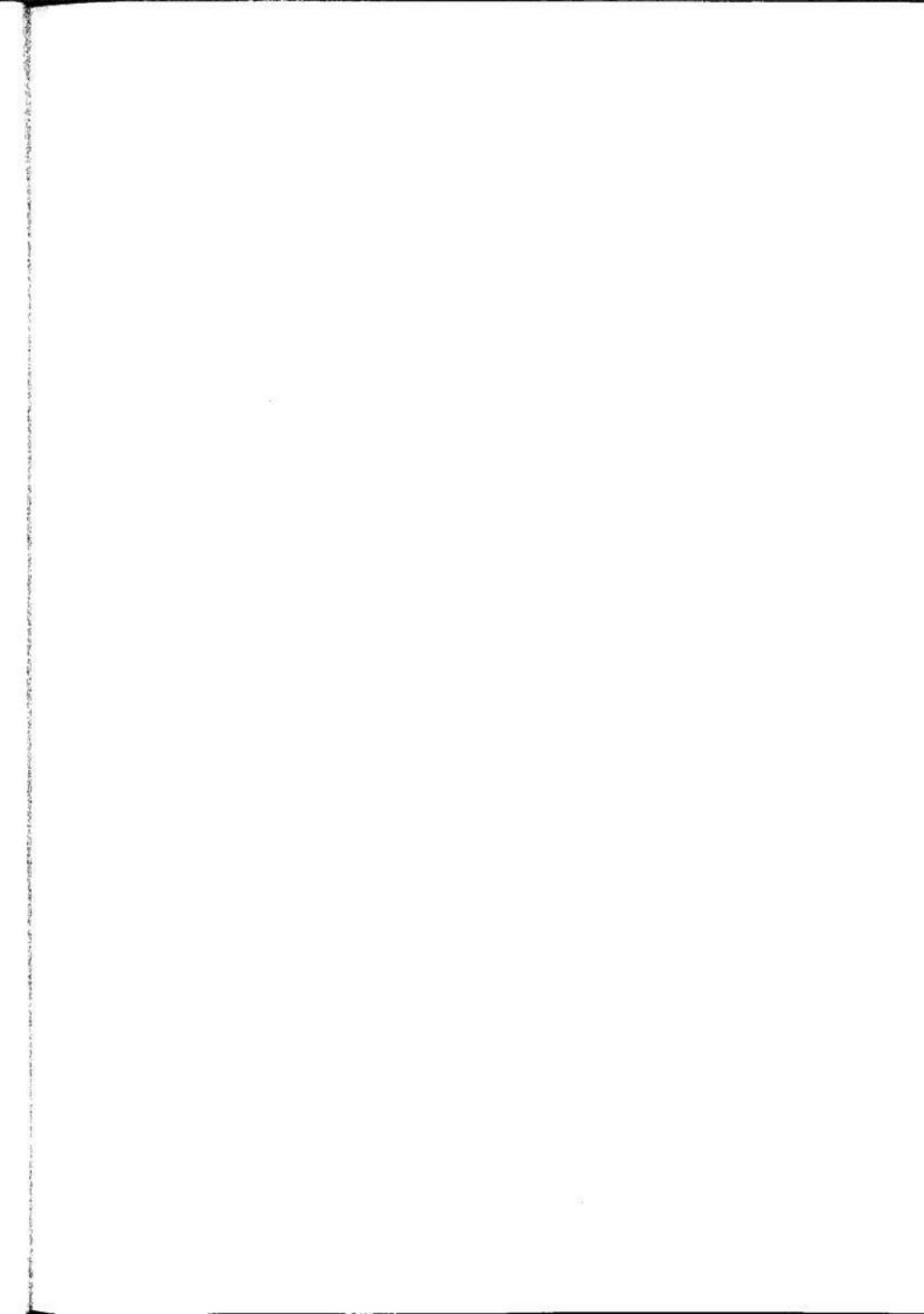
In Kurokusa site #2, 22 stone remains 'Shuseki'(man made stone filled area),9 earthen pits and about 40,000 pottery and stone tools were excavated. We excavated them under the layer of Akahoya Volcanic Ash.

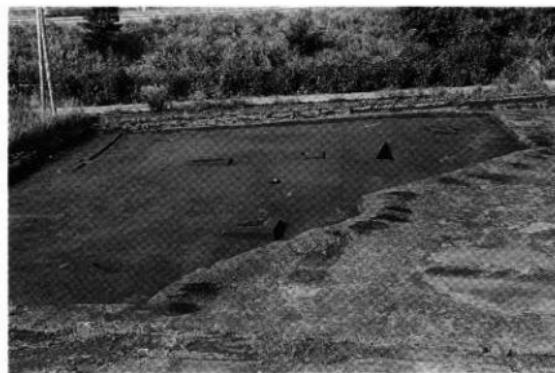
As a whole, stone structures were small and were composed with small stones(about 10cm). There aren't deep falls under these remains. It is not clear that what roll earthen pits in this site had, but some might be used for hunting. These remains are dating from the later Initial-Jomon. Of the pottery, large majority are the pottery impressed by shells, a small remainder are the type of Senokan or Hiragakoi Jomon pottery and a pottery decorated with dowel impressed patterns.

It is characteristic fact that white colored obsidians, which seem to be originally from Himeshima have a majority in stone tools. Also many grinding slab about 30cm in diameter were excavated here.

The other findings are small number of microcore.

Kurokusa site #2 is located in the slope and far from rivers, it guesses that this site weren't in environment which was suitable for the routine life from these fact. We could say that this site might be a kind of camp site.





(1) A地区全景(南から)



(2) A地区土坑2完掘状況



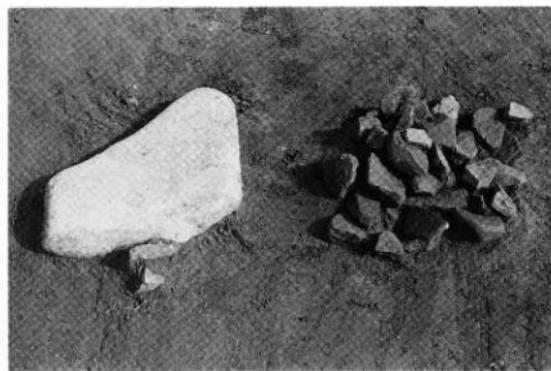
(3) A地区土坑4完掘状況



(1) B地区全景(西から)



(2) B地区石皿出土状況(北から)



(1) B地区集石遺構4
検出状況(西から)



(2) B地区集石遺構5、6
検出状況(南東から)



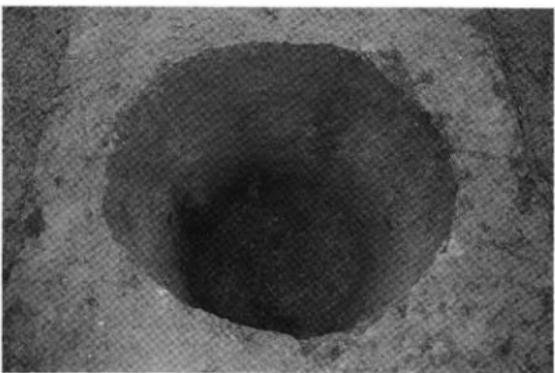
(3) B地区集石遺構7
検出状況(東から)



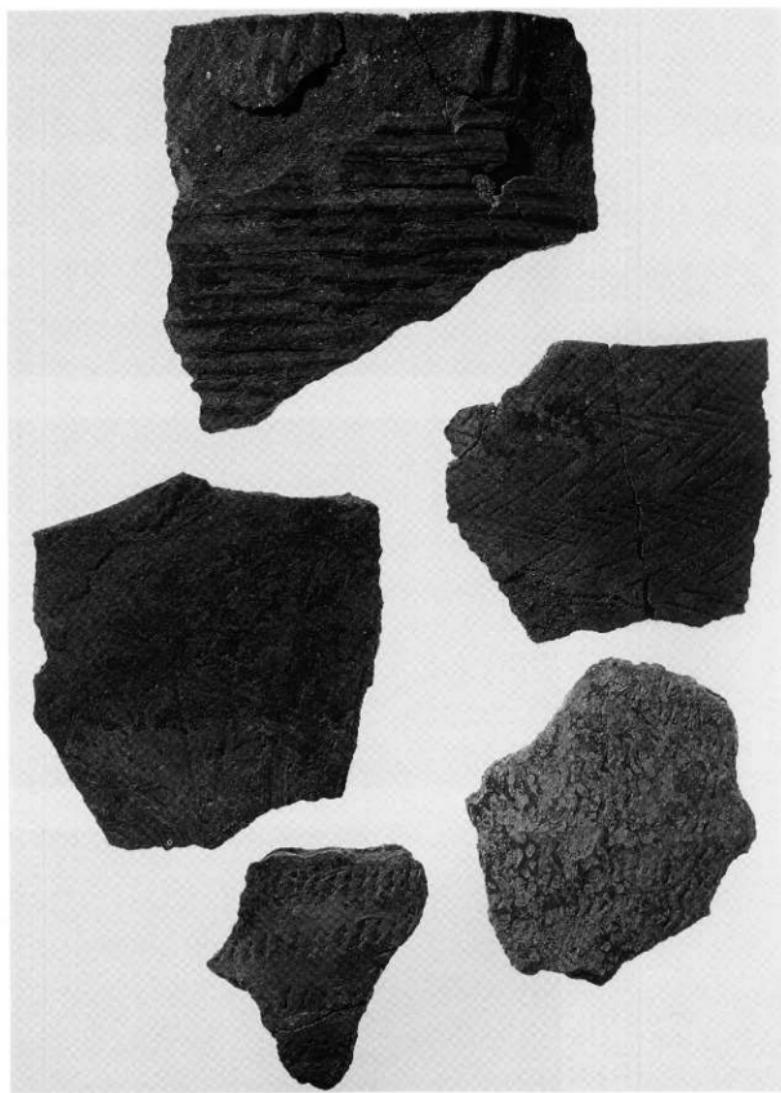
(1) C 地区集石造構 2
検出状況 (南から)



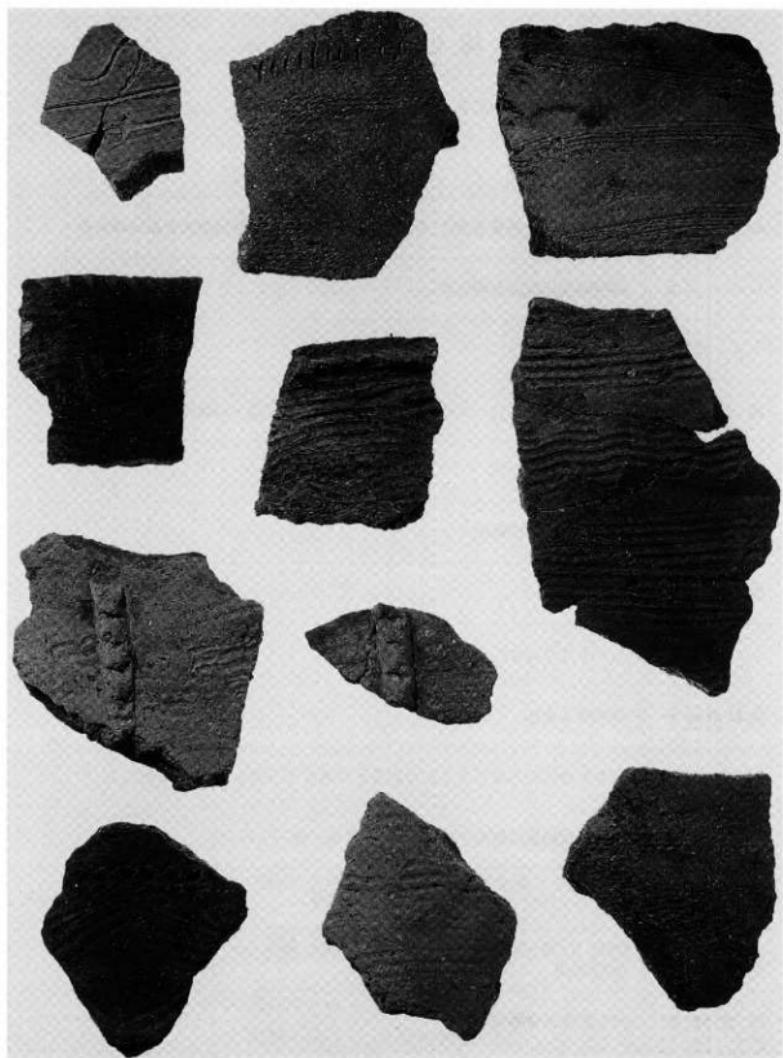
(2) C 地区土坑 5
完掘状況 (西から)



(3) C 地区土坑 3
完掘状況 (西から)



黑草第2遺跡出土遺物



黒草第2遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	くろくさだいにいせき		
書名	黒草第2遺跡		
副書名	県営農地保全整備事業(元野地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書		
シリーズ名	田野町文化財調査報告書		
シリーズ番号	第38集		
編著者名	田野町教育委員会 文化財調査事務所 金丸武司・田嶽美紀		
編集機関	田野町教育委員会		
所在地	宮崎県宮崎郡田野町		
発行年月日	2001年3月		
ふりがな	くろくさだいにいせき		
所収遺跡名	黒草第2遺跡		
ふりがな	みやざきけんみやざきぐんのちょうあざくろくさこう12349ばんち		
遺跡所在地	宮崎県宮崎郡田野町字黒草甲12349番地、他		
市町村コード		遺跡番号	2009
調査期間 調査面積	2000.8.28~2001.1.25 約7,500m ²		
調査原因	県営農地保全整備事業		
主な時代	縄文時代		
主な遺構	集石遺構 土坑		
主な遺物	条痕文土器・押型文土器・塞ノ神式土器・平格式土器、石皿・石鏃・黒曜石剥片		

田野町文化財調査報告書 第38集

黒草第2遺跡

発行年月日 2001年3月

編集・発行 田野町教育委員会

印 刷 (有)鉱脈社